

家族の形 多様性認めて

プライド月間 LGBTQ+報告会

高知市



LGBTQ+を巡る各国の状況などを話す登壇者ら
(高知市の県大永国寺キャンパス)

LGBTQ+（性的少数者）の権利擁護を訴える「プライド月間」に合わせた「国際プライドイベント in 高知」が7日、高知市永国寺町の高知県立大学永国寺キャンパスで行われ、県内在住の外国人らが各国のLGBTQ+に関する法整備の状況などを報告。「誰もが自分らしい生き方や多様な家族の在り方が認められる高知になつてほしい」などと話し合った。

「ジェンダー読書会ほたえる有志の会プロジェクトチーム」の主催で、約30人が参加。いずれも県内在住のモウド・オカナーさん(27)＝米国出身、ジェイミー・パンブリッジさん(27)＝英国出身、人権活動家のハマさん(68)が登壇し、司会の長沢紀美子さん(県大社会福祉学部長)も交えてトークを行った。

モウドさんは、米国で抑圧を受けていたLGBTQ+十当事者らが1969年6月に大規模な抵抗をしたことを機に、多様な性の在り方を祝うプライドパレードが始まったことを説明。ジェイミーさんは、英国では

同性愛に差別的な法律があった時代を経て、2013年に同性婚が認められたことを話した。両国ともに、性の多様性を認めないトランプ米大統領の影響で、国

民の分断が広がっているという懸念も出された。ハマさんは日本や高知における当事者や支援者たちの活動の歴史を説明。街中

が「Be You（あなたらしく）」という言葉で満たされ、多世代が参加するオーストラリアの大規模なパレードの熱気も紹介した。

長沢さんは「先進国の多くは同性カップルの婚姻が認められているが、日本ではできず、抑圧がある。誰もが自分のことを堂々と認める社会になれば」と期待を込めた。
(松田さやか)